

病気を抱える子どもたちが安心して交流でき、治療や学習への意欲にもつながった 認定特定非営利活動法人ポケットサポート

活動の目的

難病や慢性疾患などの長期入院や長期療養が必要な子どもたちは、他者との交流や体験学習、集団行動などの経験が不足している現状があり、治療後の復学にも影響を与える。学校教員の約2割が担任した子どもが長期入院を経験しているというデータがある一方で、教員や子どもに関わる職を目指す大学生にとって、病弱児に関する知識や、関わる経験が不足している現状もある。そこで、大学生ボランティアが主体的に参画し、大学の講義だけでは学べない病気の子どもたちへの支援に関する専門的な知識や経験を得ることを目的とした。

活動の内容及び経過

年3回の夏祭り、クリスマス会、反省会と研修ワークショップを通して、大学生ボランティアを中心に病気を抱える子どもたちが安心して笑顔で過ごせる場づくりを企画、運営した。企画には病気を抱える若者の意見や、交流会に参加した子どもたちの意見を取り入れた。会場の設定にはバリアフリーである会場、車椅子の子どもも参加しやすくするなど、設営の工夫も行った。イベント後には開催レポートなどを作成した。

3月に開催予定としていた反省会及びワークショップは、岡山市保健所と協議の上、新型コロナウイルス感染症への対応によりオンラインでYouTubeを活用した研修に変更することとなった。

活動の成果・効果

会では大学生ボランティアが積極的に子どもたちやきょうだい児に声かけするなどの様子が見られた。最初は緊張していた子どもたちも次第に打ち解けていく様子から、学び舎経験が実践に結びついていることが伺えた。

夏祭りやクリスマス会の企画イベントではアンケートから「車椅子や、体の小さい子がいたり、体調面を心配しなくても安心して楽しむことのできる場でよかった」「サポートしてくださる方が、もっともっといろんな分野に増えて行って欲しいなと思います」「ボランティアの人たちが楽しい遊びを考えてくれたり、美味しいものを作ってくれたりしたのでうれしかったです」といった声が寄せられた。アンケートの内容からも、大学生の企画運営が子どもたちや保護者の楽しみや安心につながっていることがわかった。

病気を抱える子どもたちにとっては感染症にかかるリスクが高まることから、直接対面が難しい場合が



ある。現在では、政府も推進しているICTの活用による遠隔授業などの取り組みを当団体では設立当初から行ってきた。話し合いの結果、YouTubeによる配信授業を行うこと、それにオンラインで参加することにより研修とすることとした。企画運営を行うボランティアらも、今後現場で活用が見込まれるICTでの支援を図らずも学ぶこととなった。この点に関しては様々課題とされることが、視点を変え他の方法論を用いることで解決出来るという実践につなげることができたことは一つの成果と考えられる。

今後の課題と問題点

この度の新型コロナウイルスなどの感染症流行により、予定されていた活動が行えないという事態になることがある。しかし、そのようなピンチにも団体としての強みを活かしたICTを活用した取り組みに変更する案が出たことで対処することができた。

- 代表者：三好祐也 ●所在地：岡山市北区奥田本町
- TEL：086-941-1713 ●E-MAIL：info@pokesapo.com
- URL：https://www.pokesapo.com/
- 設立年：2011年 ●メンバー数：正会員30名 賛助会員140名